

放牧は合理的な飼い方

■筆者プロフィル■
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。

但馬牧場公園では、夏から秋にかけてゲレンデに牛を放牧している。放牧した牛は牧歌的な雰囲気を醸し出し、牧場公園の重要なアイテムの一つになっている。

放牧しているのは近くの農家の牛だが、飼育規模が大きくなつた今、放牧は省力的で

ビタミンや纖維質の豊富な草

を十分食べさせられ、運動も

できる合理的な飼い方とし

て使わなくなつた棚田など

も利用して行われている。

牛を農耕に使っていた時

代、放牧する期間は今より短

かつた。八十八夜から土用の

頃まで山や河川敷等に牛を放

牧し以後は牛小屋で飼つた。

出石川でコウノトリと但馬

牛が一緒に写っている写真を

も載せておいた。

私が育った浜坂でも岸田川

の河川敷で放牧していく朝

夕、家の前を一団の牛追いが

通つた。ある日、牛を追つて

いたおじさんが追い網を持た

れてやると食べる。

こうして見ると、草丈が伸

びる八十八夜頃から放牧し、

土用後は草を刈り取つて食べ

せるのは野草を効率的に利

用する方法もある。また、稻

牛小屋で飼うことにより、稲

刈りの後に田に入る堆肥も利

用される。当時の合理的な飼い

方だったのだろう。

今年の夏は雨が少なくて、

草の発育が遅く、ゲレンデの

地肌が見えてしまっているの

がちょっと残念だが、のんび

り草をほむ牛は心和ませてく

れる。

終わり、八十八夜から土用頃

までは田植えなどの農事が忙

しく、牛を飼う手間を省くた

めに放牧したと言う。土用か

ら後は、農事の手がすき、ヒ

ルやダニなどから牛を守るた

めに牛小屋で飼つた。

牛は馬と違つて上の前歯を使つて

いる。長い舌と下の前歯を使つて

いる。無く、下顎にだけ生えている。

牛は馬と違つて上の前歯を使つて

いる。長い舌と下の前歯を使つて

いる。長い舌と下の前歯を使つて